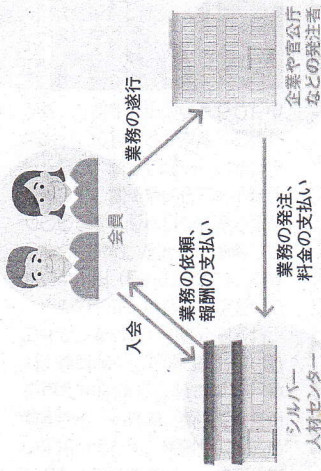


シルバー人材センターに加入 「ちよこつと就労」で生きがい

実 充
ife/



シルバー人材センターの事業の仕組み



希望の仕事をするためにはどのようなしたらよいか。事業協会によると、看護師や保育士、書道の段位や級位といった取得した資格があればセンター側に伝えおおくのがおすすめだ。

内容は様々だ。就業者のべ教の割合が最も多いのが、「運搬・清掃・包み等」の53.3%で、屋内外清掃や草むしり、カート整理などが含まれる。2番目が「サービス」の27.2%で、建物管理や家事手伝い、学童通学見守りなど。ほかにも、取事務や店番、雑木の剪定、空き家管理、車検などがある。これらの仕事を発注しているのは、家庭や企業、官公庁などだ。

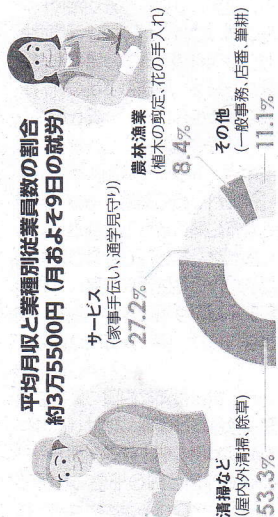
ちよこつと就労をするには、まず住んでいる市区町村のシルバー人材センターに加入して仕事を選ぶ。月10日程度以内の臨時的・短期的な業務か、週20時間を超えない軽易な業務とされている。

公益社団法人「全国シルバー人材センター事業協会」によると、2021年3月末現在、シルバー人材センターの数は全国1,100団体で、ほとんどの市区町村にあるところ。会員数は約89万8千人。そのうち男性が66%、女性は34%。年齢別では70代が6割強と最も多く、次いで60代が割、80代以上が1割いる。回しセンターは定年退職者などの高齢者の就業機会を確保するため、1988年に改正された高齢者雇用安定法で明文化された。

草むしり、通学見守り、建物管理など。全国にある「シルバー人材センター」は、60歳以上の会員に、自分に合った働き方ができる「ちよこつと就労」の機会を提供している。

「定年後、何をしようか」と考える人は多いかもしれませんが、そんなときの選択肢になりそうなのが、60歳以上の「ちよこつと就労」。余裕のある時間を使い、社会と自分のために無理なく働くことができます。

平均月9日程度 無理なく◆介護・保育現場でも期待



平均月収と業種別従業員数の割合
約3万5500円(月おそよ9日の就労)

2020年度新規会員(8万2200人)の入会動機トップ3

- 1位 生きがい・社会参加 2万8616人
- 2位 健康維持・増進 1万6830人
- 3位 経済的理由 1万6315人

「シルバー人材センター」事業の概要2021から

無理はしない。1日2〜3時間から始める

孤立せず 人との交流を大切に。親睦会などがあるセンターも

まずはお試しで。合わないと思ったらやめても大丈夫

シルバー人材センターの業務は、複数人でつくるグループで対応することが多い。場所によっては、親睦会やサークル活動もある。

それまで会社員だった人が、士に就ける仕事をして、「案外楽しかった」と感嘆を述べることもあるという。事業協会の担当者は一今までも「ここにあった仕事に携わり、思わぬ喜びや発見があることがあります」と語る。

一方、企業で長年働き、定年を迎えた人の場合、氣を付けておくべきことがある。特に一定の役職に就いたことがあると、上司のように指を出してしまうからだ。「会員さんはその職務では初心者。セカンドキャリアとして気持ちを切り替えて始めてほしい」と(担当)

また、「子どもと接する仕事があったら」「○○の資格を生かしたい」と具体的にやりたい内容を示すことも大事だという。どれくらいの収入を望んでいるのか、どんな時間帯で働きたいのかも考えてほしい。全国の会員の平均月収は約3万5500円で、平均就業日数は月に9日程度だという。

20年度に新規入会した人にその職務を尋ねたところ、最も多いのは「生きがい・社会参加」だった。ほかにも「健康維持・増進」「経済的理由」「時間的余裕」が上位を占めた。

超高齢化社会で要介護認定を受ける人は増えている。厚生労働省は、要介護状態に至る前段階にあたる「フレイル」を予防するポイントとして、身体活動や社会参加を挙げている。ちよこつと就労は、社会とのつながりを保つ選択肢にもなりそうだ。

少子化などを背景に人手不足が加速するなか、高齢者が介護や保育などの現場で活躍することが期待されている。ただ、未経験だと避けてしまう人もいるかもしれない。

そこで、兵庫県豊前市では、市の事業として60〜80代の人が参加する。月間の一泊二日就労が企画され、19年に始まった。のちに発足した特定非営利活動法人「健康・生きがい就労ラボ」(宝塚市)の理事長遠藤俊之が提案した。

無資格でも未経験でもできる仕事を、週1回から、1日2〜3時間程度働いてもらった。介護施設では、食事の準備や後片付け、浴室の入浴準備など。保養施設では、屋敷の見守りや遊具の消毒など。施設のスタッフを、周辺業務を担うことでサポートした。

この企画の終了後のアンケートでは、約9割の人が「満足」「やや満足」と回答した。約8割の人が、お試し期間が過ぎても継続して仕事に携わったという。「生活リズムができてお小遣いも入り、充実した日を過ごした」「ボウリングや趣味、集力がいるので、夜の睡眠が良くなった」「自分の体力に合った働き方で、仕事ってこんなに楽しかったんだと新発見といった声も寄せられたという。

同法人は、介護や保育の現場でもお試し就労は、事業者と参加者の双方にメリットをもたらすとみて、取り組みが広がるよう期待する。遠藤氏は、高齢者らもちよこつと就労について、「健康維持や社会貢献につながるという動機付けをしつかりすることが大切」と指摘している。(寺田美穂子)

ポイント